

茂原市史編さん事業の活動

(中世史調査その一)

No.2

問合せ
美術館・郷土資料館
☎(26)2131
FAX(26)2132

茂原市域の中世を考えるうえで、重要な豪族の一つに角田(須田)氏がいます。

角田氏については、令和2年7月1日号のこのコーナーで、濱名委員が綱島浄法寺の釈迦如来像の造立主の可能性を指摘していますが、改めて考察してみたいと思います。

角田氏は平安末期から鎌倉初期、上総国に大きな勢力を持つていた上総介広常の弟相馬常清の家系で、広常滅亡後、上総氏系平氏の本流となりました。元々の本拠である下総国相馬御厨から墨田保(※)(長南町須田や市内墨田周辺)に拠点を移し「角田」を名乗るようになり、畔蒜庄(君津市東部、木更津市東部、袖ヶ浦市東南部)北部も所領とし、上総国に大きな勢力を持つようになりました。

建治元年(1275)の「六条八幡宮造営注文」によると角田氏は上総国の御家人筆

頭とされ、造営の負担額も他は三〜七貫のところ、一五貫と群を抜いて多くなっています。

角田氏の館は、岩川館跡(長南町岩川)と推定されます。岩川館跡は、一宮川の上流南岸の須田や墨田に隣接する場所であり、出土遺物などから主に一三〜一四世紀に使用されていたと考えられます。



▲岩川館遺構全景

(写真 長南町郷土資料館所蔵)

『吾妻鏡』などによると、角田氏は承久の乱(承久3年1222)の勲功賞で、美作国(岡山県)に所領を得ると、やがて一族は西国に拠点を移したとされます。

その後、鎌倉末まで畔蒜庄には影響力を持っていたようですが、墨田保周辺での動向は史料上では確認できず、また、一三世紀後半には得宗被官の高橋氏がここに居館(墨田の妙源寺がその跡という伝承がある)を造営したと伝えられています。その後、角田氏の痕跡が近隣で確認出来るのが、いすみ市の万喜城跡山

麓にある上行寺の過去帳の記録です。万喜城は戦国期、上総土岐氏の居城として知られていますが、土岐氏が入る以前は、上総武田氏の配下にあつたと考えられ、上行寺は万喜の武田氏の菩提寺と伝わっています。

過去帳奥書に「本願主上之総州夷隅郡万騎住人武田浄信殿即広国□ 広国姓源氏父者上総国長南之住人武田源次良信勝三代孫左近尉信広□ □ 信広父者須田三良信政□ 其先清和天皇裔□ □ 長享三(1489)己酉年十月吉日」とあり、万喜の武田広国の父が長南の武田信広で信広の父は須田信政と記されています。この記述が正しいとすると、一五世紀後半、角田氏は長南武田氏と姻戚関係にあったこととなります。当時、角田氏は依然として墨田周辺で一定の力を持ち、急速に勢力を伸ばしてきた武田氏と結び、勢力を維持あるいは拡大しようとしたのでしょうか。しかし、現時点で、当地域におけるその後の角田氏に関する資料は見つかっていません。

探しています! 茂原の歴史 ~新たな茂原市史を編さん中~

家の押し入れや蔵、自治会の倉庫などに、古い書付や写真などありませんか? 捨てる前にご相談ください。また、茂原の年中行事や方言、言い伝えについての情報も探しています。

茂原市史編さん委員会
編さん委員 嶺島 英寿

一方、長南武田氏は戦国期、茂原市域の大部分を所領としますが、やはり関連する資料は少なく、その動向は謎が多いままです。
市史編さん事業では、今後もし引き続き、資料調査を進め、地域の歴史を解明していきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。
※保とは、平安末期から中世にかけての国衙領内の行政単位